

1. 地区の概況

図1 地区の位置 *地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5mメッシュにより作成

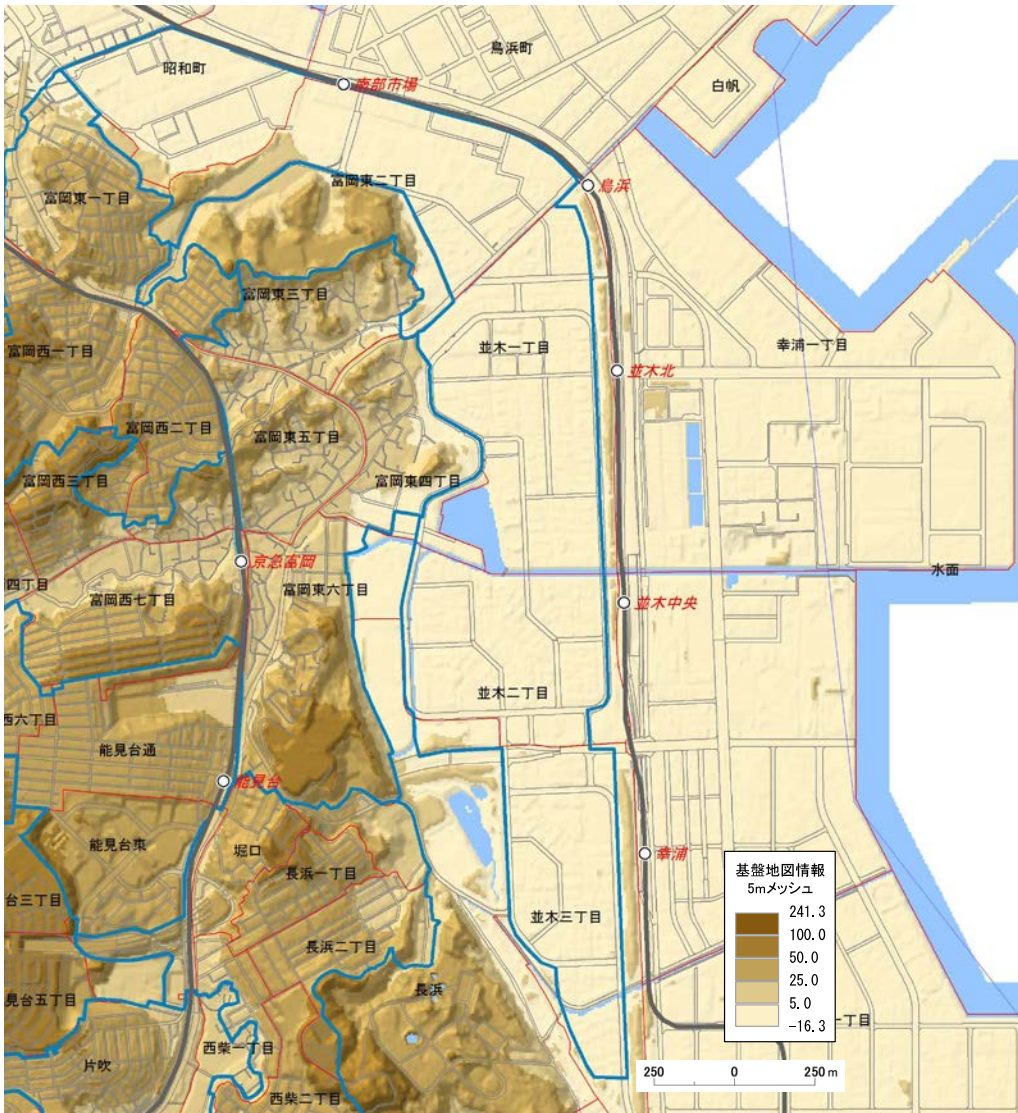


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成20	平成25	平成30	平成20 ~25年	平成25 ~30年	平成25 年比率	平成30 年比率	平成30年 区平均	平成30年 市平均
人口 (人)	23,775	22,632	20,757	▲ 1,143	▲ 1,875	100.0	100.0	100.0	100.0
0~14歳人口 (人)	2,635	2,555	2,198	▲ 80	▲ 357	11.3	10.6	11.6	12.4
(内0~5歳) (人)	1,087	1,070	780	▲ 17	▲ 290	4.7	3.8	4.1	4.7
15~64歳人口 (人)	17,258	14,053	10,946	▲ 3,205	▲ 3,107	62.1	52.7	59.5	63.4
(内20~24歳) (人)	1,405	998	736	▲ 407	▲ 262	4.4	3.5	5.3	5.3
(内25~39歳) (人)	5,441	4,636	3,079	▲ 805	▲ 1,557	20.5	14.8	15.1	17.8
65歳以上人口 (人)	4,155	5,991	7,564	1,836	1,573	26.5	36.4	28.9	24.2
(内65~74歳) (人)	2,824	4,045	4,600	1,221	555	17.9	22.2	14.8	12.1
(内75歳以上) (人)	1,331	1,946	2,964	615	1,018	8.6	14.3	14.1	12.1
世帯数 (世帯)	9,810	9,873	9,622	63	▲ 251				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.42	2.29	2.16					2.29	2.10

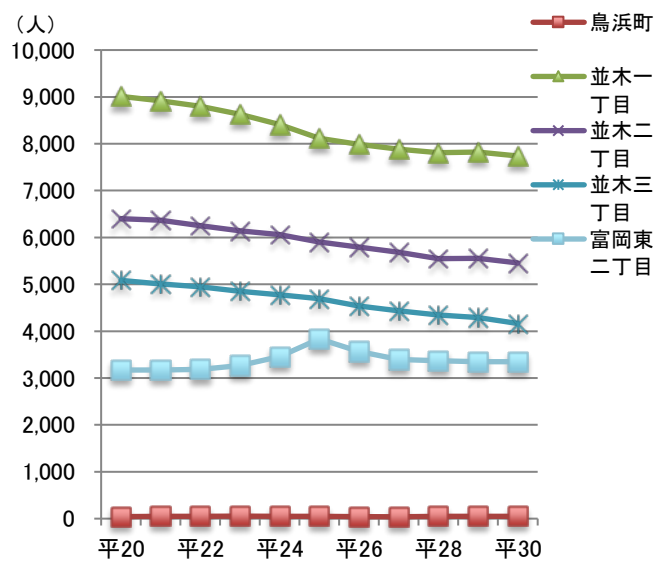
*「町別世帯と人口」、「町別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

*人口等の統計データは町丁目を単位に集計されたデータを活用しています。

*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

2. 町丁別人口世帯の動向 *「町丁別世帯と男女別人口」による。各年9月末現在

図2 町丁別人口の動向



金沢シーサイドタウン地区には、平成30年9月現在約20,760人が暮らしています。世帯数は約9,620世帯、平均世帯規模は2.16人/世帯です。(表1参照)

平成25～30年の期間で見ると、人口、世帯数はともに減少しています。人口の減少傾向が強まっており、平成20～25年の期間には増加していた世帯数も減少になりました。

世帯規模は縮小する傾向が続きます。平成30年の平均世帯規模は金沢区の平均(2.29人/世帯)区の平均的を下回っています。(表1参照)

平成30年時点の65歳以上の人口比率(高齢化率)は、36.4%で市平均(24.2%)を大きく上回っています。高齢化率は5年間で約9.9%上昇しました。急速に高齢化が進んでいます。

0～14歳の人口(年少人口)は減少しています。

15～64歳の人口(生産年齢人口)の減少が続いており、比率も低下(5年間で約10%低下)しました。(表1参照)

金沢シーサイドタウン地区には、11町丁が含まれています。

このうち、並木一～三丁目と富岡東二丁目住宅市街地です。その他は工業・流通系の市街地で居住人口はほとんどありません。(図2,3,4参照)

並木一～三丁目は人口の減少が続いています。世帯数は、並木一丁目、二丁目安定又は微増傾向、並木三丁目は緩やかな減少傾向です。(図2,3参照)

世帯規模はいずれの町丁とも縮小が続いています。(図4参照)

図3 町丁別世帯数の動向

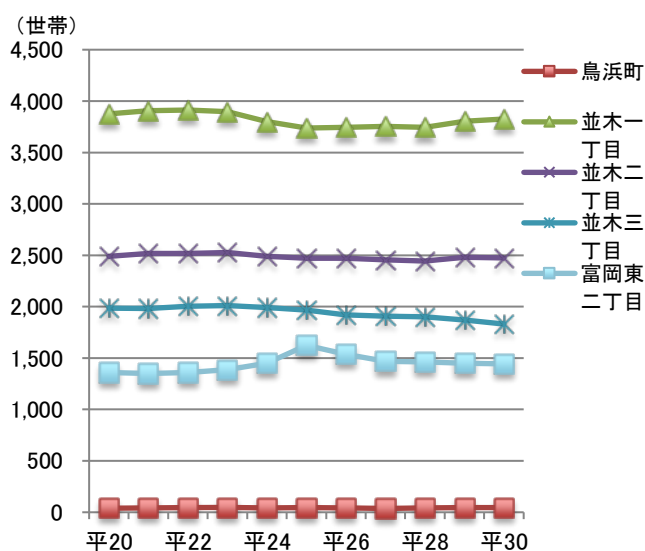
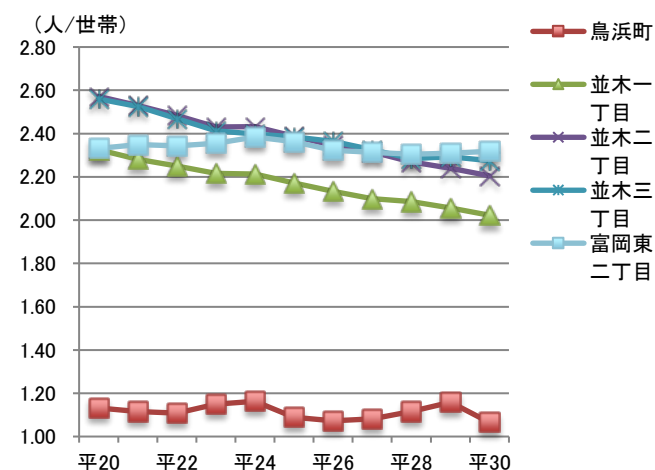


図4 町丁別平均世帯規模の動向



富岡東二丁目は人口、世帯数とも増加し続けてきましたが、平成25年以降は人口、世帯数ともに緩やかな減少になりました。

富岡東二丁目の平均世帯規模は緩やかな縮小傾向が続いています。(図2,3,4参照)

3. 地域の施設等の分布状況

図5 地域の施設等の分布状況

*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。
 *施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



4. 年齢別人口と人口移動

図6 年齢5歳別の人口の変化

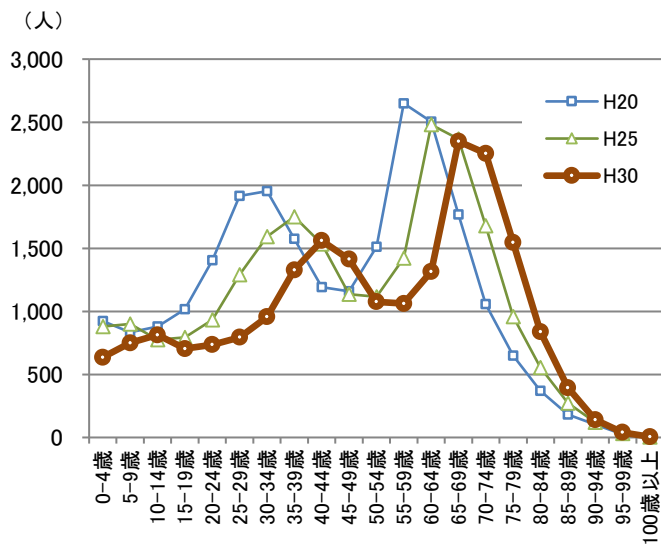


図7 年齢5歳別の人口の推移率

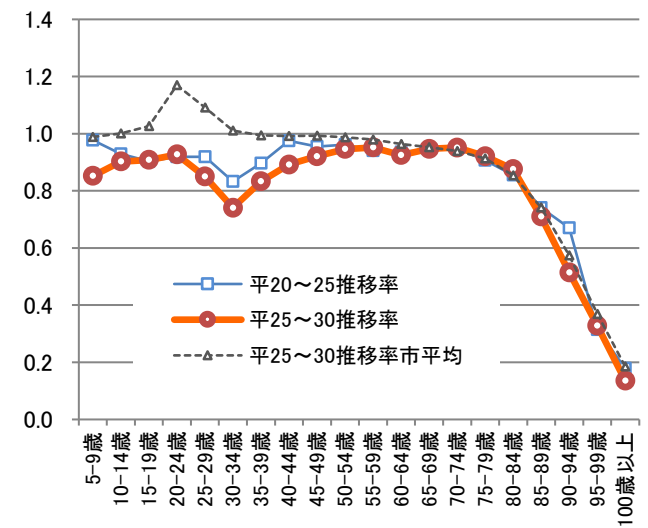
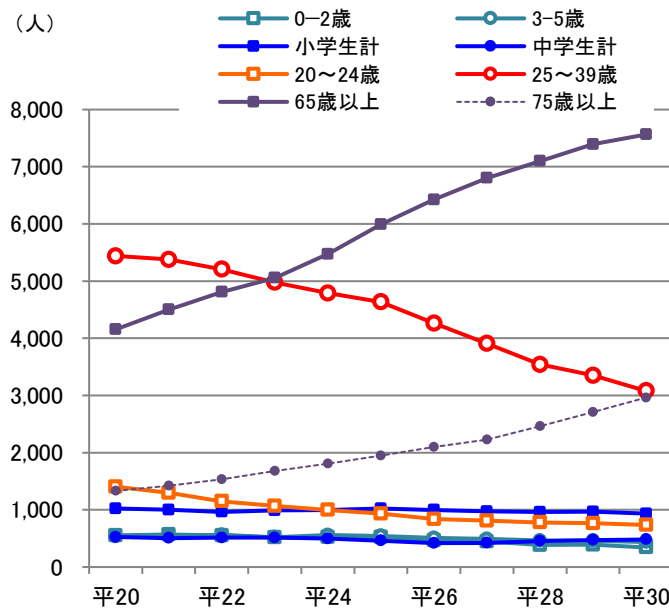


図8 年齢別人口の変化



*推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合

金沢シーサイドタウン地区は60～74歳と35～49歳の人口が特に多い年齢構成になっています。(図6参照)

年齢5歳別人口の推移率は30～34歳に転出による減少の傾向が強まっていることを示しています。

この他のすべての年齢層でも推移率が1.0を下回っており人口減少になっています。(図7参照)

人口移動は毎年大きな転出入があるものの、転出が転入を上回る傾向が続いています。平成28年は転出・転入のバランスが取れています。(図9参照)

また、年齢5歳別の社会移動は時期により変化が大きいことを示しています。0から4歳の転入が減ってきていること、平成28年中は子育て世代(25～39歳)の転出が目立っていることなどがわかります。(図10参照)

図9 人口移動の動向

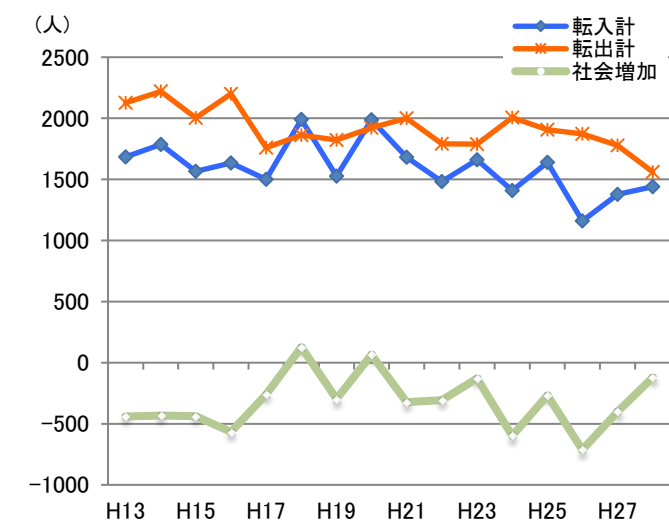
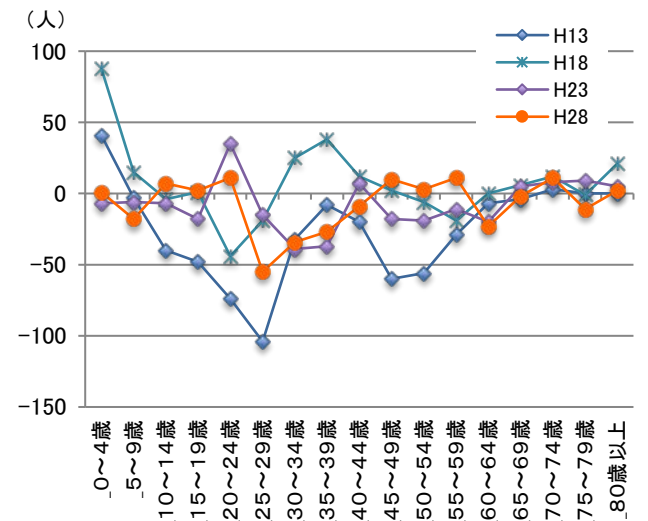


図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



5. 世帯の状況と居住歴

*各年「国勢調査」結果による

図 11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

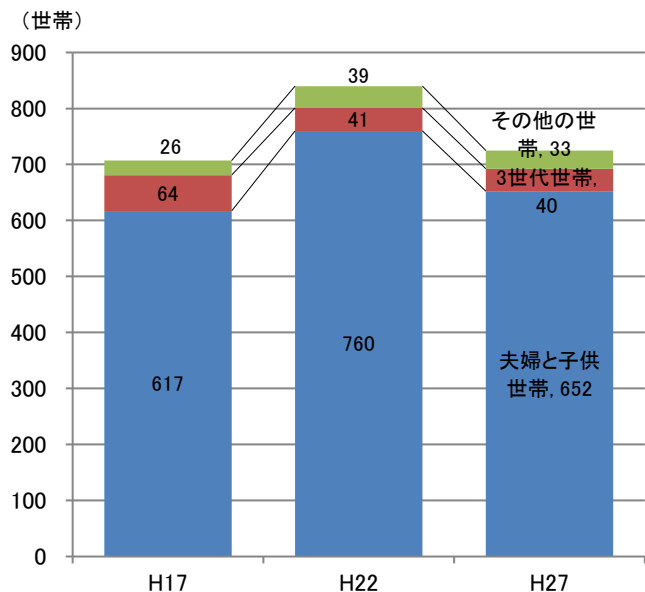


図 12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

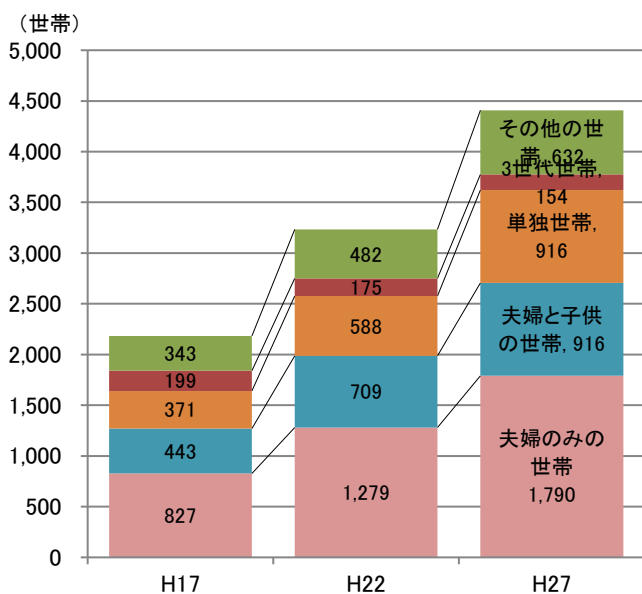


図 13 住宅の所有関係別の世帯の動向

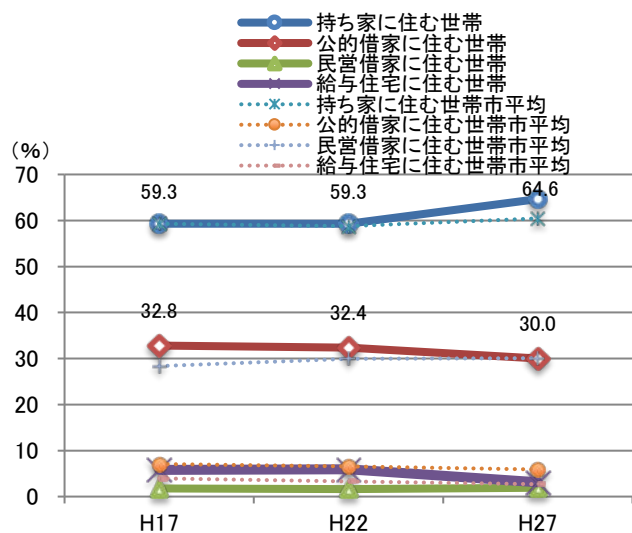


図 14 住宅の建て方別の世帯の割合

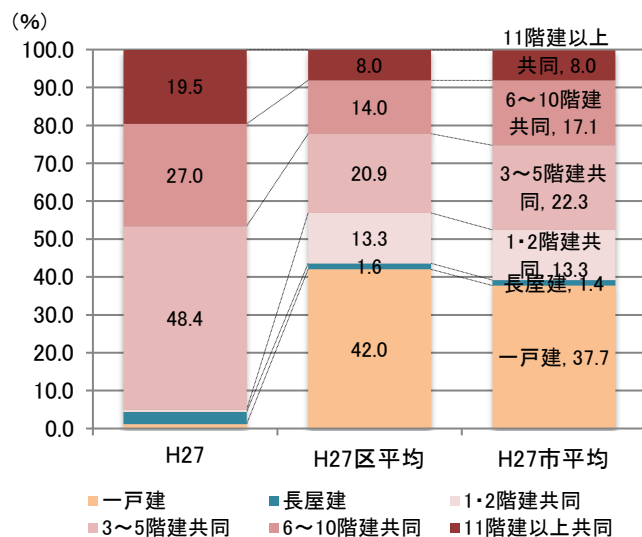


図 15 規模別世帯の動向

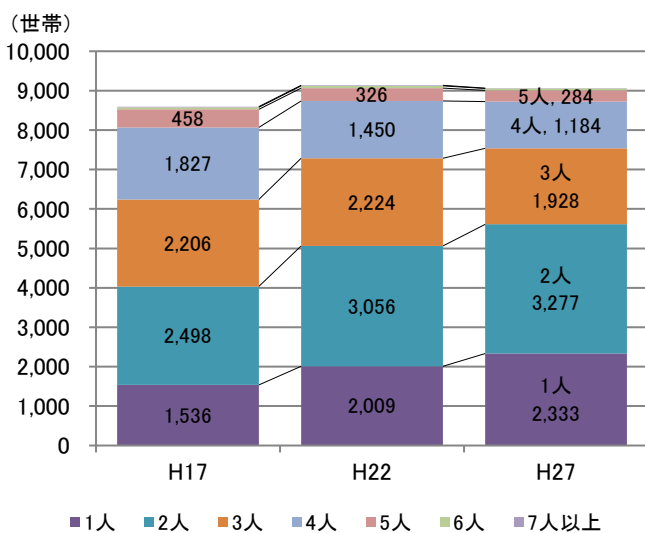
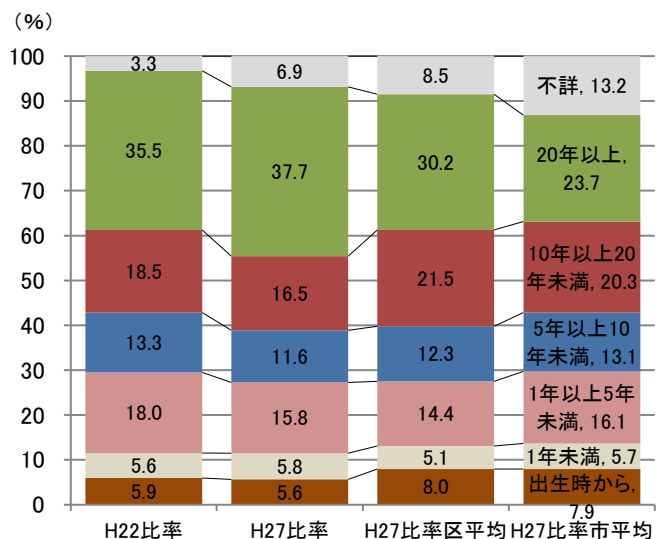


図 16 居住歴別人口の割合



6. 65歳以上の高齢者のいる世帯、要介護認定者数

表2 高齢者のいる世帯の状況 (H31)

	高齢独居世帯数 (男性高齢者)	高齢独居世帯数 (女性高齢者)	高齢者のみ世帯数 (単身世帯除く)	高齢者を含む世帯数 (高齢者と高齢者以外で構成)
世帯数(世帯)	486	1,085	1,851	3,519
対世帯総数比率(%)	5.0 (区平均 4.8)	11.3 (区平均 11.7)	19.2 (区平均 14.3)	36.5 (区平均 26.9)
対高齢者のいる世帯数比率(%)	13.8 (区平均 17.9)	30.8 (区平均 43.4)	52.6 (区平均 53.2)	100.0

*横浜市資料による。2019年3月時点。世帯数は住民基本台帳による

*高齢独居世帯は65歳以上の方1名で構成される世帯

*高齢者のみ世帯は、65歳以上の方のみで構成される2名以上の世帯

*高齢者を含む世帯は、65歳以上の方と、65歳未満の方で構成される2名以上の世帯

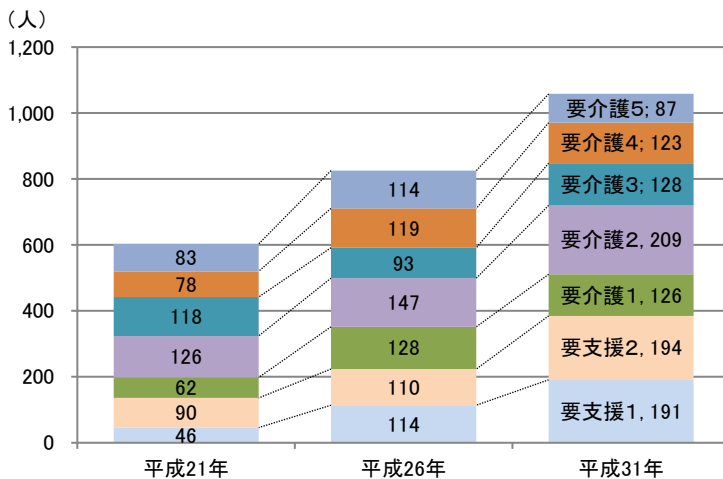
表3 要介護認定者数 (H31)

	計	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
要介護認定者数(人)	1,058	191	194	126	209	128	123	87
人口比(%)	5.15	0.93	0.94	0.61	1.02	0.62	0.60	0.42
人口比区平均(%)	4.70	0.73	0.64	0.74	1.00	0.61	0.58	0.40
要介護認定者総数比(%)	100.00	18.05	18.34	11.91	19.75	12.10	11.63	8.22
区平均(%)	100.00	15.46	13.69	15.82	21.31	12.93	12.34	8.45

*要介護認定者数は、金沢区資料による。平成31年3月末時点

*地区別人口は、「町丁別の人口(住民基本台帳による)」により集計。平成31年3月末時点

図17 要介護認定者数の動向



*各年、要介護度別認定者数は金沢区資料による。

7. 地区の特徴と動向

金沢シーサイドタウン地区は、区の臨海部の埋め立て地に工業・流通系の区域と住宅地からなる金沢シーサイドタウンを中心とした地区です。

地区に住む世帯の約 95%が共同住宅に住んでいます。最も多いのは3～5階建ての共同住宅で、世帯総数の約 48%を占めています。6階以上の共同住宅は 47%です。(図 14 参照)

持家に住む世帯は約 65%です。市営住宅、県営住宅、都市機構などの公的な賃貸住宅に住む世帯が約 31%あります。少ないですが社宅・宿舍(給与住宅)が約 3%あります。(図 13 参照)

金沢シーサイドタウンは昭和 57年から 59年にかけて入居が進み、入居開始から概ね 35年が経過しようとしています。

居住期間が長い人が多くなっています。平成 27年時点で、居住期間が「10年～20年未満」(約 17%)と「20年以上」(約 38%)の比率は合計すると約 55%になります。「20年以上」の比率が高いのが特徴です。一方で、居住歴が 10年未満の人が約 33% (「出生時から」は含まない) います。(図 16 参照)

6歳未満の子どもがいる世帯は平成 27年で約 725世帯で、世帯総数(約 9,060世帯)の 8%を占めています(区平均は約 8%)。このうち約 90%が核家族です。

(図 11 参照)

65歳以上の高齢者がいる世帯は増加が続いています。単独世帯、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が目立ちます。

平成 29年で高齢者のいる世帯数は約 4,410世帯で、世帯総数の約 49%です(区平均は約 32%)。このうち、高齢者の夫婦のみの世帯は約 41%、高齢者の単独世帯は約 21%です。(図 12 参照)

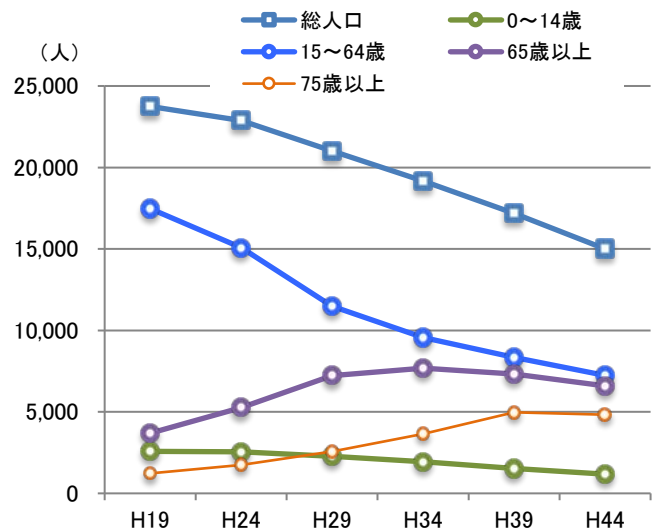
平成 29年時点で高齢者のいる世帯の比率は約 51%で区の平均(約 43%)を上回っています。(表 2 参照)

また、要介護認定者の人口比率は約 4.5%で、区の平均(約 4.7%)を下回っています。(表 3 参照)

現在は、30歳代前半を中心にほとんどの年齢層で緩やかな転出による減少が起きています。(図 7 参照)

現在の年齢 5 歳別の人口の変化がつづくものと

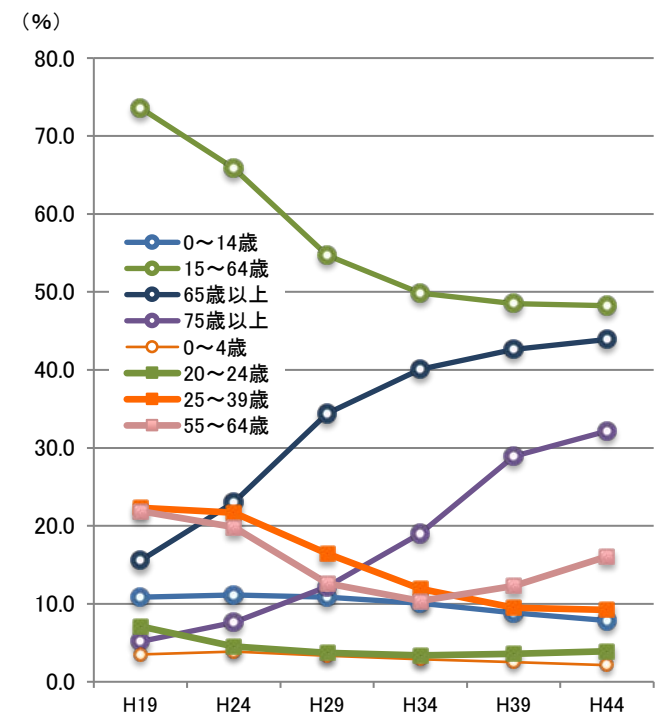
図 18 人口の動向と推計



*平成 24～29年の年齢 5 歳別人口の変化の傾向が続くものとして推計した値です。

*平成 34年以降が推計値です。

図 19 人口の動向と推計 年齢別比率



すると、人口減少が続く可能性があります。(図 18, 19 参照)

者人口の増加傾向は弱まるとしても、75歳以上の人口は今後、急速に増加すると考えられます。(図 6, 18, 19 参照)